

7

国際文化理解演習Ⅰ・Ⅱ 韓国語オンライン研修

岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科
教授 石橋敬太郎、准教授 吉原秋

該当する
原則

原則 10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

1. 活動の概要

グローバル社会が進展する今、岩手に暮らしているようにも、世界で起こっている様々な問題は決して他人事ではない。これからの若者たちに求められるのは、自分の身の回りに起きる出来事や地域の課題などを、世界的な視野で俯瞰して捉える力と感性を磨くことである。

岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科では、地域から世界へと視野を広げ、国際人としての知見を身につけるため、多様な文化を学べる様々なカリキュラムを用意している。

しかし、2020年から世界に蔓延した新型コロナウイルス感染症によって状況は大きく変化し、大学の授業も変更を余儀なくされた。例年であれば、1年次の「国際文化理解演習」において、アメリカまたは韓国での海外研修が行われていたが、2020年度は中止にせざるを得なかった。2021年度は、学生が外国語・異文化を学ぶ機会を確保するため、初めてオンラインによる研修を実施することとした。7名の学生が、慶熙大学校国際教育院の韓国語短期オンライン課程を受講した。

2. 活動の内容と効果

受講期間は3週間に亘り、午前中は韓国語の文法の学びと様々な状況設定の中でスピーキング能力を磨き、午後はK-POP、韓国ドラマ、ハングルカリグラフィーなどの文化を学んだ。オンライン授業は、学生が好きな場所で受けることができるのがメリットだが、今回は初の試みということもあり、全員が登校し、能力別クラスに分かれて受講した。少人数クラスのため先生から丁寧な指導が受けられるメリットも活かされている。また、慶熙大学校に在学中の韓国の学生と1対1で交流できる「トウミ」というプログラムもあり、学生同士がそれぞれ親交を深めた。

韓国語研修の目的は、ハングル、韓国の文化や歴史を学ぶとともに、韓国の学生たちとの交流を通して異文化を理解する際の姿勢を学ぶことにある。新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度は遠隔による授業を実施したが、こちらが想像していた以上に、ハングルの習得はもちろんのこと、トウミとの交流も行われ、学生にとって実りある研修となった。

学生たちは、コロナ禍であっても、積極的に研修に参加し、少しでも多くのことを吸収しようと語学の習得に励んだ。今後は選択肢の一つとして、オンラインを活用した授業を取り入れていくことも検討している。



韓国語オンライン研修